

議 事 録

令和4年1月4日作成

会 議 の 名 称	令和3年度第1回島本町総合教育会議		
会 議 の 開 催 日 時	令和3年12月22日（水）10時30分～12時00分		
会 議 の 開 催 場 所	島本町役場3階 委員会室	公開の可否	可
事務局（担当課）	総合政策部 政策企画課	傍聴者数	5名
非公開の理由（非公開（会議の一部非公開を含む。）の場合）	—		
出 席 委 員	議 長 山田町長 教育委員会 中村教育長、高岡委員、森田委員、西尾委員、丸野委員		
会 議 の 議 題	案件1 みづまろキッズプランの進捗状況について 案件2 民間保育所等に係る補助金見直しについて 案件3 島本町立第一幼稚園の利用ニーズ低減の実態把握のためのアンケート調査報告について 案件4 島本町保育基盤整備加速化方針の進捗状況について 案件5 その他		
配 布 資 料	資料1 みづまろキッズプランの進捗状況について 資料2 民間保育所等に係る補助金見直しについて 資料3 島本町立第一幼稚園の利用ニーズ低減の実態把握のためのアンケート調査報告について 資料4 島本町保育基盤整備加速化方針の進捗状況について		
審 議 の 内 容	別紙のとおり		

開会

- 開催のあいさつ
- 傍聴の許可

【案件1】みづまるキッズプランの進捗状況について

議 長

それでは、案件に従いまして、議事を進めさせていただきます。
「案件1 みづまるキッズプランの進捗状況」についてです。
まずは教育委員会事務局から概要の説明をお願いいたします。

教育委員会事務局

（資料1「みづまるキッズプランの進捗状況について」の説明）

議 長

ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等があればお願いいたします。

委 員

遊びから小学校への学習にどうつなげていくのかというところは、常々とても大切な部分だと思っていました。これから始めることにはなりますが、町全体でキッズプランとして形にして取り組んでいるのは、本当にありがたいことだと思っています。

委 員

今までの教育はどちらかというと、「答えを教える」という教育だったと思います。みづまるキッズプランは、認知能力と非認知能力でいうと、非認知能力の方をバックボーンとして育てていくという認識でよろしいでしょうか。

教 育 長

教職員は「教える」という意識が強いと思いますが、これからは子どもが何に興味を持ち、どんな方向に自己が発達しているのか、目の前の子どもを見ながら、授業構成をしていくということも大切だと思っています。

この間、保育所や幼稚園で保育・教育活動に参加させていただいていると、皆さん実によく子どもを見ていて感じています。もちろんカリキュラムや教えることがないということもありますが、その時々の子どもの興味を持っていることや注目していることを上手にすくい上げて、そこから関連のある活動に発展させていっています。子どもたちにはそういう姿勢を小学校に上がってからも持ち続けてほしいと思っています。教職員側も、そこについては就学前の保育士・幼稚園教諭に学んでいただきたいところだと思っています。

これまでも「保幼小の接続」が大事と言われていて、全国どこでもやられていると思いますが、おそらく、その多くは子どもに関する情報交換やイベント事がメインで、カリキュラムを一緒に同じ空間・時間をともにして考えるということはされていないのではないかと思います。まずは、保育士や幼稚園教諭がされていることよき、メリットを体感することから始める機会を持てたことがよかったと思っています。目指すところは、「教えるという意識」から「子ども主体の学び」へ向かえばよいと思っています。

委 員

指導要録が改訂されて、みづまるキッズプランはその先取りができていよう見え、島本町にとって自慢できることであると感じています。

委 員

みづまるキッズプランについては、教育委員会議で随時ご報告を受けており、常々すばらしい取り組みをしていただいているなと感じるとともに、子

どもたちがどういう反応したかなど、新たな気づきを得られて勉強になっています。

今回、「保幼小の接続」ということでキッズプランを実行していただいています。町長におかれては、保幼小の接続に注力されているほかに、教育の現場でどういうところに注力していきたいなど、展望があれば教えていただきたいです。

議 長

まず前提として、私としては教育の内容に介入することはできませんが、教育長とはテストの点数で測れる認知能力ではなく、非認知能力を育てていく教育を日本でできたらおもしろいよねという話をさせていただきました。

例えば、海外では経済学的に子どもたちに投資をする中で低年齢であればあるほどその効果が高いという事例があります。経年の調査事例もあり、やはり幼児期の子どもたちがしっかりと学べる環境があることが大切だと考えております。

委 員

教育長から「保幼小の先生方が一緒にカリキュラムを作るということは案外少ない」という話がありましたが、私もそう思います。小学校の教員をしている中で幼稚園との連携にも取り組んできましたが、小学校の中だけで考えるスタートカリキュラムでは、「幼稚園からの連携を考えてこんなふうにしてみようと思います。幼稚園の先生方どうでしょうか？」という感じになります。そうすると、どうしても主体が小学校の教員になってしまい、幼稚園からは意見をいただくだけになってしまいます。

今回のように継続的に3者の先生方が、一緒に研修を積み重ね、一緒にカリキュラムを作っていくとされていることはすごく値打ちが高いことと思います。

そこでお伺いしたいのですが、資料の1ページ目の一番下のところの4つの要素の中に「④環境構成」と書かれていました。環境は保育所、幼稚園、小学校で随分違うと思っています。小学校の立場からすると、できる限り子どもが自分で自由に活動ができるようにとは思いますが、私も生活科を担当していたこともあり、生活科の視点ではそう思っている、国語や算数、体育、図工などの他の教科がある中で、どうしても環境構成が振りきれないという状況もあります。そこについて、保育・幼児教育の先生方から見られて、どのように映っているのかをお聞きしたいです。学校の環境を整えていくとなるとお金もかかってくることで、その辺りにどれだけのお金を投入していただけるのかということにも繋がっていくかなと思っています。

委 員

保育の中で素晴らしいなと思うのが、「環境構成」だと思います。保育の場では「自由遊び」と言って、子どもたちは集団保育をする前に自由遊びをしています。それは自由遊びではなく、意図した環境構成の中で遊んでいるので実は自由ではないと考えています。子どもたちが何に興味があるのかということ、子どもたちを観察しながら、今月のねらいや今週のねらいを用意することは環境構成に役立っていると思います。

この話は子どもだけではなく、実は障害や介護の場でも関係があり、まずは環境構成をしっかりと押さえておかないと、その人の自立というのはなかなか見込めてこないです。例えば、乳児がはいはいから立ち上がりのときにはここに机があったからいつの間にか立てるということとか、環境の中にどこに何を配置するのかっていうのもとても大切なところだと思います。

小学校に入ったときに環境構成がどのようになっているのかは私も理解ができていない部分がありますが、そのようなところも含めてこのような協議の場で、話ができるとありがたいと思います。

委員

「スタートカリキュラム」という言葉になるので、どうしてもどのような教育内容をするのかという部分に議論が行きがちですが、それらは実は環境なのだということで、カリキュラムの策定ももちろんのこと、カリキュラムを実現できる環境をつくり出すということがもう一つの肝にもなってくるものと思いました。

教育長

カリキュラム策定を目指してはいますが、カリキュラムありきではありません。たとえカリキュラムを作ったとしても、学校も違えば子どもも大人も違うので、その根底の理念を理解することが必要です。

この間、環境構成がいかに大事だということがわかりました。保育所や幼稚園の先生方と、研修の折に話していると、ハッとすることがたくさんあり、スタートカリキュラムを策定する際も一緒に入っただき、空間や時間の制限はある中でどこまでフレキシブルにできるのかアイデアをいただき、どんな環境構成が教室で可能なかを考えていきたいと思っています。

先進校では、一限を45分と定めずに、少し長い枠で設定しています。それは、子どもがせっかく興味を持って45分でぶつ切りになってしまうからで、子どもの中の必然性が持続する空間と時間をつくってあげればよいと思っています。

今回の指導要録ではカリキュラムマネジメントが入ってきています。こういうことは、低学年だけではなくて中学年、高学年、中学校とずっと基本的な考え方が続いていき、スタートカリキュラムに繋がってくると思います。教職員は「カリキュラムって管理職が作って、それを自分たちは実行する実行者だ」という意識が強いのかなと思いますが、カリキュラムの実行者ではなくて、教師一人一人が開発者の意識を今後持っただけならいいなと思っています。

目の前の子どもを見ながら、もちろんベースはありますが開発していく楽しさと面白さを味わっていただく。スタートカリキュラムは低学年ですが、低学年だけでなく全職員それに関わっていただくように考えています。

委員

環境構成で、忘れがちなのは「時間」です。物や人は思い出しやすいですが、「時間」も環境の一つだと考えています。私もこれまで小学校の授業は45分授業であって、そこは外せないものだと思っていましたが、教育長が仰ったように、もう少し授業時間を長くすることで子どもの発見につながるというところは、時間をフレキシブルに使えば、またそこも一つ環境構成としての良い成果になるんじゃないかなと感じました。

また、みづまるキッズプランの策定にあたっては、委員構成が9名で、どちらかというと島本町立の先生方が委員としてたくさん入っておられます。待機児童ゼロをめざした結果、民間保育所もたくさんできていますが、民間保育所とこのみづまるキッズプランをどう連携させていくのでしょうか。現在の策定プロセスによって町立小学校と町立保育所は、おそらく連携していけるのだと思いますが、せめて策定委員には民間保育所の先生方も入ってもらって、我が事のように思っただきたいと思っています。

教育委員会事務局

私立保育園の方もメンバーに入れてというご意見は以前からもお聞きしているところではありますが、このプランを策定していく中でまずは町立の保育所・幼稚園、それと小学校の中で策定をしていきたいと考えております。

今後このプランができ上がった折に、広く周知していこうと考えております。

議長

現段階では民間保育所の方はメンバーに入っていないですが、今後情報提供などは積極的にしてほしいと思っています。策定段階の情報もある程度共

有し、「カリキュラムができたからこれをやってね」ではなく、現在一緒に幼保がカリキュラムを作っているように、常に関心を持っていただけるようにしていただきたいと思っています。

【案件2】民間保育所等に係る補助金見直しについて

議 長

続きまして、「案件2 民間保育所等に係る補助金見直し」についてです。まずは教育委員会事務局から概要の説明をお願いいたします。

教育委員会事務局

（資料2「民間保育所等に係る補助金見直し」について）の説明

議 長

ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等があればお願いします。

委 員

「①運営助成」については、補助金は町の政策目的に合わせて行うものと認識していましたので、何に使ってもよいというのは違うかなと思いました。

「①運営助成」を廃止することで、どの程度ほかに使えるようになるのでしょうか。また、今まで35%を交付されてたということはかなりの額だと思いますが、この35%を交付するにあたり、根拠があったのかどうかお伺いしたいです。

また、「⑭保育士処遇改善等補助」を新設されていますが、「公定価格の6%を上限とする」と明記されています。この数字の根拠があれば教えて欲しいです。

教育委員会事務局

令和2年度決算額ベースでは、「①運営助成」に該当する金額が約1.2億円になり、こちらを廃止することで再編の原資として活用できると考えています。

35%の数字の根拠は、明確な根拠が定かにはなっておりません。

「⑭保育士処遇改善等補助」における公定価格6%の根拠ですが、民間保育所等に対しては扶助費として施設型給付費をお支払いしています。この支払いに当たり、国で地域区分という市町村ごとの区分を設けており、その所定のパーセンテージを、施設型給付費の加算に適用しています。地域区分のパーセンテージが島本町においては6%とされているため、今回補助金として上乗せする形で給付をしていきたいと考えております。

委 員

保育士の採用が困難な状況ですが、保育士の養成校では学生が多く目指してやってくるそうです。では、なぜ保育士がいないのか、なろうとされないのかを考えると、企業にほとんど流れていくという現状があります。企業で保育機関を持っているとなると大企業になると思いますが、大企業の待遇が良いということです。

補助金の見直しというのは、おそらく保育事業のクオリティの向上というのも目指されてのことだと思いますが、保育士の免許を取ろうという方々は、幼稚園や保育所へ行くとやっぱり労働が非常に厳しく、逆に企業へ行くと、こちらの方が待遇も良いし仕事も負担が少ないということです。

今後、町としては保育士に来ていただくために待遇面をどうしていくのかお考えをお聞きしたいです。

教育委員会事務局

保育士の待遇改善は、これまでも本町独自の取組を進めてきており、「⑱保育士雇用補助金」「⑲新規採用保育士等臨時給付金」などの各種補助制度を設けて取り組んできました。ただ、町の施策として給与面の待遇改善を行うには限界があります。そのような中で、最近、国の補正予算案の中で保育

士の待遇改善の方向性が一定示されました。現時点では情報提供にとどまり、具体的な内容は下りてきていませんが、今後、国から府を通じて具体的な給与等への反映などの施策が下りれば速やかに対応していく予定です。

また、新設する「⑭保育士処遇改善等補助」については、保育士の処遇改善と保育内容の充実を、これまでの「①運営助成」で語られてきた趣旨目的としてとどめるだけでなく、実際に働く保育士への人件費に充てて、安定雇用確保に活用いただくことを想定していますので、町として取り組める範囲で今後も支援していきたいと考えております。

教 育 長

以前、島本町では就学前の段階での研修の機会が少ないと聞いていました。その部分を専門とする指導主事はいませんが、就学前の保育・教育内容について一緒に学ぶ機会を設けることがまずソフト面から取り組めることだと思います。理想を言えば、町に来るといい保育・教育について勉強ができるよと広まっていけば嬉しいです。

委 員

私の卒業生が島本町に3人、民間保育所の保育士として働いています。学生に聞くと、給与面もですが休めているかどうかがとても大事になっています。

もう一つ大事なことが、プリセプター制度があることです。学生は卒業してもすぐ働ける1人前ではないので、指導してくれるプリセプター制度があると、すごく良いと聞いています。実は介護施設では、おおよそプリセプター制度がついていて、半年ぐらいは1人前になるまでは施設職員が気にかけて声かけてくれたり相談にのってくれたりしているようです。京都市では、認証制度も作っていて、それができている施設かどうかを一律に点数化して、学生は就職活動の際に参考にしています。

なかなか給与面では補助金の枠組みがあったりなどして何十万も支払えるものではないと思いますが、島本町だとプリセプター制度が充実していますみたいなことがあれば、学生の後押しもしやすいと思っています。

議 長

役場組織においても後任育成は課題となっているのと同様に保育所現場でも人材の充実が課題になっていると思いますので、補助制度の枠組みの中で支援できるかや、財源の問題なども含めて考えていきたいと思っています。

教 育 長

教育委員会にいた際は学校研修に行きがちでしたが、就学前の職員の方々の人材育成を考えていきたいと思っています。

委 員

「⑩病児保育事業補助」の事業が島本町に新設されるのは、とてもありがたいことだと思います。

島本町の子どもたちを見ていくことも大事だとは思いますが、近隣の市町村で、お困りの方があれば対象を拡充していくということは考えられていますか。

教育委員会事務局

令和4年4月に開設予定の「認定こども園ゆいの詩」については、現在運営法人と協議を進めており、その中では、島本町民だけでなく町外の方も利用できるように調整をしています。

ただ、例えば利用の優先順位につきましては、島本町民を優先し、また、料金の設定につきましては、町外の方は金額設定が高めになるといった方向で協議を進めています。

委 員

「⑭保育士処遇改善等補助」について、所定の削減率を超えないように補助金を増額するというお話が出ています。「令和6年度まで」と書いてありますが、そちらがなくなったとしても、公定価格の6%を上限とした補助は

続くのでしょうか。

教育委員会事務局

その通りでございます。

委員

使途が分かる形で補助金の使い方を正していくということには私も賛成で、一つ一つのはっきりした使い方に対して補助をするというのが望ましいと思います。

保育所の運営に係わるということは、子育てや福祉分野に関わることでもあると思います。住民の皆さんが、子育てをいかにしやすくなるかというところに繋がっていきますので、透明度が上がっていくのは非常によいことだと感じています。町が「住み続けたいまちランキング1位」になったというニュースを拝見しましたが、やはり子育てをしやすいいところがまちの魅力に直結していると感じますので、現在大きな方針を示されている透明度を上げていくことをこれからも続けていくことができれば、住民の皆さんにも伝わって良いと思います。

委員

私の子どもは幼稚園で、様々な行事体験ができたと感じています。「①運営助成」について、催し事に係る経費はこれまで運営助成から払われていたのか、それとも別途などところから払われていたのでしょうか。

教育委員会事務局

園内で展開される各種催し物の経費については、予算書・決算書上では明らかにはなっていないことがこれまでの問題点となっています。

「④保育士処遇改善等補助」では、職員の処遇改善だけではなく、保育内容の充実に資する取組に係る経費には補助を充てて良いという制度設計をしていく予定です。

現在の各種催し物の原資は定かではありませんが、計画書・予算書を年度当初に提出していただき、その中で妥当と認めたものについては、この補助種別の中で補助ができるのではないかと考えています。

【案件3】島本町立第一幼稚園の利用ニーズ低減の実態把握のためのアンケート調査報告について

議長

続きまして、「案件3 島本町立第一幼稚園の利用ニーズ低減の実態把握のためのアンケート調査報告」についてです。

まずは教育委員会事務局から概要の説明をお願いいたします。

教育委員会事務局

（資料3「島本町立第一幼稚園の利用ニーズ低減の実態把握のためのアンケート調査報告」の説明）

議長

ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等があればお願いします。

委員

私立幼稚園を選ばれた理由について、第一位が「入園年齢」で第二位が「給食の有無」となっていますが、普段から他の保護者のご意見を聞いていますと、働いているお母さんであればきょうだいの面倒も見ながらお弁当を作るのが大変で、給食の有無で朝の時間の使い方が全然違うという話も聞いたことがあります。

第一幼稚園においても給食を検討していくべきかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

教育委員会事務局

給食の提供については、今回のアンケート結果からも必要性は認めるところですが、第一幼稚園において考えると、大規模な設備投資から始まり、調

理を開始した後では人件費や物件費などの多くの経費がかかることから、給食を実施する予定はありません。

議 長

幼稚園の場合、配食であれば可能でしょうか。

教育委員会事務局

幼児については、自園調理ではなくても良いこととなっています。

委 員

第一幼稚園の園児が減少していることは、この1、2年のことではなかったと思っています。認定こども園にしていくのか、給食施設をどうするのかなども踏まえて、町長にお考えがあれば伺いたいです。

議 長

給食施設を独自につくるということはなかなか難しいと実感しております。ただ、その中で、例えば「3年保育が良い」や「給食が良い」などのアンケート結果に対して、自園調理でない昼食でも良いのであれば配食サービスを検討するなど、利用者ニーズに応える検討を行い、今後の方向性を決めていければ良いと考えています。

委 員

今回のアンケートは第一幼稚園に通っていらっしゃる保護者へのアンケートで、選ばなかった理由を問う内容ですが、第一幼稚園に通わせていらっしゃる保護者の方の理由に何か傾向があるのであれば教えてほしいです。

教育委員会事務局

第一幼稚園への在園児の保護者に対するアンケートというのはこれまで実施しておりません。

委 員

第一幼稚園を選ぶプラスの理由が分かれば、そちらをアピールするという方法もあるかと思えます。

議 長

アンケートはすぐに実施できますか。

教育委員会事務局

ただちにアンケートを実施するという事は難しいですが、実施に向けた検討をしていきます。

議 長

なぜ選ばなかったのかのアンケートのほかに、在園児の保護者へのアンケートがあった方が検討を進める上で良いと思いますので、いいところや強みをどのように伸ばしていくか、逆に弱みを解消していくためにはどうすればよいかの検討材料として、アンケートを実施していきたいと考えています。

教 育 長

他園との比較はできないですが、第一幼稚園へ何度か訪れた際、子どもたちが非常にのびやかで笑顔で落ち着いている雰囲気を感じました。

他園でも実施されていることかもしれませんが、子どもからの興味、例えばビオトープ作りでは子ども自身が見つめてきた蛙やオタマジャクシなどを加え、自然観察の目とストーリーを物語っていき、それを見守る先生がいて、とても良い幼児教育をされていると感じました。

また、栽培の部分では、限られた種類の植物を育てるのではなく、子どもが育てたいと言った種をほぼすべて用意して植え、子どもたち自ら名前をつけて記録をしていくということをされています。

上から教えてやらせるのではなく、子どもから出た興味や主体性を作り上げながら次の活動に発展させているという空気を感じ、在園児の保護者の方はそのあたりも魅力に感じて下さっているのかもしれないと思います。

【案件4】島本町保育基盤整備加速化方針の進捗状況について

議長 続きまして、「案件4 保育基盤整備加速化方針の進捗状況」についてです。
教育委員会事務局から概要の説明をお願いいたします。

教育委員会事務局 (資料4「島本町保育基盤整備加速化方針の進捗状況について」の説明)

議長 年度途中でなぜ待機児童が出てくるかの説明をお願いします。

教育委員会事務局 保育所の入所を利用希望される方の要件は様々ですが、年度初めの4月1日時点で入所の要件を満たしている方だけではなく、年度の途中で就労を開始された方や、疾病や妊娠出産、転入、出生して育児休業が明けの方など様々おられるということで、年度途中の待機児童が発生します。

年度当初に各施設で設定した体制があり、この体制の範囲で受け入れを行うことがまず基本となるため、年度当初よりも年度末の方が待機児童は出やすくなっています。

委員 待機児童ゼロを掲げて短い期間で保育所の立ち上げができていて、府下ワーストワンが待機児童ゼロになって、本当にすごいことだと思います。

その中で、町が直接管轄する保育所が少なくなっていますが、そこについてどのようにお考えでしょうか。

議長 町で建てるとなかなか国からの補助が出ず、民間で建ててもらう方が補助が出るなどの現状があります。

すべての町立施設を維持や拡充していくということは、今の国の方針においては将来的には難しくなってくると思いますので、今後の見通しは今の段階から皆さんと協議をしながら幼稚園や保育所のあり方について検討していかないといけないと思っています。

ただ、私としては、建てたばかりの第四保育所の維持することも大切ですし、公立でやっていくことも一定必要であると認識しています。

教育長 町の小学校には保幼小連携協議会があり、保育・教育の情報交換や研修が開催されていますが、町内の町立・私立を問わず職員の方に声をかけて参加していただいています。また、研修の際には小学校・町立・私立が混じるようにグルーピングをして対話する時間を設けるようにしています。

今後、私立の方とどのように交流、情報共有を深めるかというところでは、この場も活用できるのではないかと考えています。それ以外にも、今後も町立・私立が協働で何かできる機会をつくっていきたいと考えています。

議長 せっかく島本に来ていただいている民間事業者なので、島本の保育・教育として町立・私立が連携しながらやっていきたいと思っています。

【案件5】その他

議長 「案件5 その他」について、委員の皆さまから、その他にご意見ご質問等、何かございますでしょうか。

委員 第一幼稚園のアンケートについて、定員の50%を切っていることから実施されたアンケートということですが、今後第一幼稚園に通っておられる方の意見から得られる強みを活かしていく方針として理解してよろしいでしょうか。

教育委員会事務局

今回アンケート調査を実施させていただいたのは、第一幼稚園の利用者が減ってきているという事実がある中で、おそらくこういう理由だろうということは推測としてはありましたが、明確に調べたことはなかったので実態把握のために調査を実施しました。

第一幼稚園を選ばなかった保護者のアンケートに対して、第一幼稚園を選んだ保護者へのアンケートを実施することでポジティブな意見もいただき、これを踏まえて、今後どのように考えいくのかようやくスタート地点に立つので、現時点では方向性は明確ではありませんが議論のたたき台になると考えています。

議 長

ちなみに現在、山崎幼稚園の定員と現状の入園者数はわかりますか。

教育委員会事務局

定員は380人であったと記憶しています。島本町からの入園数は、12月1日現在で244人でした。令和2年度の12月1日時点では238人のため、昨年同時期と比較すると微増となっており、ニーズ量に変化はみられないとお見受けします。

委 員

町ではヤングケアラーを把握されていますか。また、ヤングケアラーがいた場合にどのように施策にまでつなげて考えているのでしょうか。

また、ヤングケアラーだけではなく、母子家庭では親の介護をしながら育児も行い、母親1人に負担がかかっているような事例もよくありますが、町で何か取組は考えていますか。

教育委員会事務局

各小中学校では、学期ごとに生活アンケートを実施しています。そのうち、6校中3校で、ヤングケアラーに関する質問項目を設け、実態把握に努めているところです。教職員には当然周知をしていますので、今までは虐待やいじめという観点で子どもたちの様子を注意深く見守っていましたが、これからはヤングケアラーと言う部分の視点も持って、子どもたちと接していく中で注意深く観察するという取り組みをしています。

議 長

その他、何かありますでしょうか。

(特になし)

議 長

事務局から何かありますでしょうか。

事 務 局

特にありません。

議 長

本日の案件は、すべて終了いたしました。

以上をもちまして、本日の会議を閉会いたします。

お疲れさまでした。

<終了>